

会 報

No.74 (2003年2月)

目 次

日本分子生物学会 第12期第4回評議員会報告	1
日本分子生物学会 第25回總會報告	2
日本分子生物学会 第13回評議員選挙結果報告	3
日本分子生物学会 2003年度会計収支予算	4
日本分子生物学会 第3回春季シンポジウム	
「科学の原点 - 知的好奇心 - 」のご案内	5
第25回日本分子生物学会年会 年会報告	8
第26回(2003年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その1)	9
日本分子生物学会・男女共同参画・ミニワークショップ	
- 男女共同参画・ネットワークづくりに向けて -	12
学術賞、研究所助成の本学会推薦について	13
研究助成一覧	14
各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	16
○ ロボット工学セミナー 第20回シンポジウム	
バイオ応用ロボティクスの現状と将来	
- 「生体組織を対象とする微細作業高度化」研究専門委員会成果報告 -	16
○ 第4回PIKPK研究会(旧ATM/PKD研究会)	17
○ 第30回生体分子科学討論会	17
○ 第3回日本蛋白質科学会年会	18
○ 第24回日本糖質学会年会	20
その他	20
○ NIA/NIH マウス7.4K cDNA クローンセット分譲開始	20

日 本 分 子 生 物 学 会
(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

日本分子生物学会 第12期第4回評議員会 報告

日時：2002年12月10日(火) 15:30 ~ 19:00

場所：パシフィコ横浜会議センター3階ラウンジ

出席者：小川智子(会長) 相沢慎一、池田日出男、石川冬木、磯野克己、大野茂男、岡田清孝、小川英行、勝木元也(第26回年会長)、品川日出夫、清水信義、西田栄介、花岡文雄、藤井義明(第25回年会長)、升方久夫、町田泰則、山本正幸、荒木弘之(庶務幹事)、仁木宏典(会計幹事)、嶋本伸雄(広報幹事)、鍋島陽一(編集幹事)、山本雅之(編集幹事)、飯野雄一(集会幹事)、佐竹正延(集会幹事)、富澤純一(Genes to Cells 編集長)、松原謙一(日本学術会議会員)、柳田充弘(第27回年会長)、押村光雄(第3回春季シンポジウム世話人)、大坪久子(男女共同参画委員)

欠席者：新井賢一、大石道夫、大坪栄一、岡野栄之、榊 佳之、篠崎一雄、月田承一郎、中西重忠、本庶 佑、御子柴克彦、山本 雅

議 事：

議事に先立ち会長より、富澤純一(Genes to Cells 編集長)、松原謙一(日本学術会議会員)、柳田充弘(第27回年会長)、押村光雄(第3回春季シンポジウム世話人)、大坪久子(男女共同参画委員)の各氏をオブザーバーとして評議員会に参加させたいとの発言があり、承認された。

1. 第3回評議員会の議事録を確認した。

2. 報告事項

- 1) 庶務幹事より平成14年度科学研究費補助金の基礎ゲノム科学と分子生物分野の審査員候補者として第一段審査委員27名、第二段審査委員7名を推薦したことが報告された。また、会員名簿が業者の勧誘等に流用されているとの複数の苦情が寄せられていることから、会員各自の名簿の管理の徹底と会員名簿への掲載事項についても今後検討していく必要があるとの発言があった。
- 2) 賞推薦委員より、推薦の状況について報告された。
- 3) 選考委員長より、選考助成候補の推薦の状況について報告された。
- 4) 会計幹事より2001年度日本分子生物学会収支決算の報告が行われた。すでに会計監査の検査により適正に予算の執行が行われたことが確認された。続いて、2002年度会計の中間報告がなされ、支出も含め順調に執行されていることが紹介された。
- 5) 藤井義明第25回年会長から、第25回年会についての説明があった。これに関連して、Webによる年会講演要旨受付の労をとられた磯野克己委員より、順調に受付ができたこと、また検索システムを導入したところ昨年同様に検索ページへのアクセスが絶えず、検索機能の需要が高いことが報告された。
- 6) 勝木元也第26回年会長より、第26回年会は、2003年12月10日(水)~13日(土)の期間、神戸国際展示場ならびに国際会議場を主会場として開催される予定であり、順調に準備が進んでいるとの報告がされた。
- 7) 柳田充弘第27回年会長より、第27回年会は2004年12月8日(水)~11日(土)の期間、神戸国際展示場ならびに国際会議場を主会場として開催される予定であることが報告された。
- 8) 押村光雄第3回春季シンポジウムオーガナイザーより、第3回春季シンポジウムは2003年5月12日(月)~13日(火)の期間、米子コンベンションセンター(米子市)で開催される予定で、講師の人選も含め準備が順調に進んでいる旨が紹介された。
- 9) 会長より、本年10月に男女共同参画学協会・連絡会が設立され、日本分子生物学会も正式メンバーとして参加し、この連絡会の運営委員会委員として大坪久子氏にお願いしたとの報告があった。この発言を受け、大坪久子氏より男女共同参画学協会・連絡会について報告があり、日本分

子生物学会の中にも男女共同参画のワーキンググループを立ち上げたいとの発言があった。

- 10) 編集幹事より Genes to Cells が投稿、刊行とも順調であるとの説明があった。また、出版費用増に伴い会員購読料を若干値上げするとの報告があった。
- 11) 広報幹事より、10月にサーバーの事故が発生したが、ホームページの運用は大きな問題なく進んでいるとの説明があった。
- 12) 松原謙一日本学術会議会員（日本分子生物学会より推薦）より、最近の日本学術会議の動向として、学術会議改革の方向についての総合科学技術会議案と日本学術会議案との違いについて説明があった。
- 13) 勝木元也委員（基礎生物学研究所所長）より、基礎生物学研究所において世界のトップレベルの研究者を集めた研究集会を定期的に開催する企画を進めている。今後、この企画を推進するため、文部科学省に要望書を生物科学学会連合を通じて出す予定であるが、日本分子生物学会としても協力していただきたいとの申し出があった。

3. 協議事項

- 1) 会計幹事より、2003年度の予算案が示され、異議なく了承された。
- 2) 第28回年会を、佐方功幸九州大学大学院教授を年会長としてお願いすることとなった。2005年12月7日（水）～12月10日（土）の期間、福岡ドームならびにシーホーク&リゾートを会場として行われる予定である。
- 3) 2004年春季シンポジウムの開催について、安田國雄奈良先端大教授にオーガナイザーをお願いすることとなった。
- 4) 会計幹事から、費用軽減のため会報の電子化を図りたいとの発言があり、了承された。2月号より電子化される予定である。なお、年会プログラムと同時発送される秋の会報については、当面電子化は行わない。
- 5) 富澤純一 Genes to Cells 編集長より、今後の Genes to Cells の編集方針について、編集委員の交代、short paper, short review を加える、出版後6カ月を経た論文は on line で誰でも閲覧できるようにしたいとの発言があった。そして、出版後6カ月を経た論文は on line での自由閲覧を可能にするため、学会から出版社に100万円の支払いが必要であるとの説明があった。さらに、今後電子化を進めて行くには、出版社の変更等も必要になる可能性があり、迅速な対応を迫られることとなるので、会長と編集長との判断でこれらを進めて行きたいとの申し出があった。これらの方針・および電子化のための出費について、承認された。
- 6) 男女共同参画に関するワーキンググループを作ることが認められ、委員の選考は会長に一任されることとなった。
- 7) 生物科学学会連合による「高校生物学教科書に関する検定意見書を文部科学省に提出する案」に日本分子生物学会も加わることが承認された。
- 8) 生物科学学会連合有志による生物学教科書制作のため、今後も本学会から1名の委員を出すことが認められた（現委員は小川英行委員）。

日本分子生物学会 第25回 総会報告

日時：2003年12月13日（金）18:30～19:20

場所：パシフィコ横浜会議センター1階メインホール

議事内容：

1. 開会の挨拶の後、総会議長として水野健作氏と大隅典子氏を選出した。
2. 議長より委任状を含めて800名以上の総会参加があり、総会が成立していることが発表された。

3. 小川会長から 2002 年度の学会活動の概要および評議員会の報告と今後の方針について説明がされた。
4. 山本編集幹事より Genes to Cells の編集・発行とも順調であるとの紹介がされた。
5. 荒木庶務幹事より会員数、協賛学会数の報告などがあつた。また、会員名簿の取り扱いについて、注意が促された。
6. 広報幹事（荒木代理）よりホームページの運営状況について報告があつた。
7. 栗政世話人代理より第 3 回春季シンポジウムについて、2003 年 5 月 12 日（月）～ 13 日（火）の期間、米子コンベンションセンター（米子市）を会場として準備を進めている旨の説明があつた。
8. 仁木会計幹事より 2001 年度会計収支決算書が提出・説明され異議なく承認された。
9. 仁木会計幹事より 2003 年度事業計画および収支予算案が提案・説明され、異議なく了承された。
10. 藤井第 25 回年会長の挨拶があり、参加者が 9,000 名を越えそうで、年会は順調に運営されている旨の説明があつた。
11. 勝木第 26 回年会長より、第 26 回年会は 2003 年 12 月 10 日（水）～ 13 日（土）の期間、神戸国際展示場ならびに国際会議場を主会場として開催する予定であることが報告された。
12. 議長より閉会の挨拶があり、総会が終了した。

日本分子生物学会 第 13 回評議員選挙結果報告

選挙公示・投票用紙発送：2002 年 11 月 1 日（会報 73 号に綴込み）

投票締切日：2002 年 12 月 2 日

開票日：2002 年 12 月 5 日

開票場所：国立遺伝学研究所会議室

開票者：選挙管理委員（荒木弘之、広瀬 進、佐々木裕之）

投票総数：313 通（うち白票を除いたもの 2,411 票）

当選者（50 音順）：相沢慎一・荒木弘之・伊藤文昭・大石道夫・岡田清孝・小川英行・
 工藤 純・桑野信彦・近藤寿人・神 佳之・品川日出夫・篠崎一雄・
 清水信義・清水淑子・杉野明雄・谷口維紹・月田承一郎・辻本賀英・
 長田重一・中西重忠・鍋島陽一・西田栄介・花岡文雄・広瀬富美子・
 升方久夫・町田泰則・御子柴克彦・養島伸生・柳田充弘・山本正幸

（印は 12 期より連続して選出された方です。）

日本分子生物学会 2003 年度収支予算

2003年度日本分子生物学会収支予算

(2003年4月1日 ~ 2004年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	2002年度予算額	2003年度予算案	備 考
学 会 費	45,600,000	49,430,000	正会員会費： 35,640,000円 (8,800名 x 4,500円 x 0.9)
賛 助 会 費	1,350,000	1,350,000	学生会員会費： 12,690,000円 (4,700名 x 3,000円 x 0.9)
広 告 収 入	2,000,000	0	海外会員会費(200名)： 800,000円
預 金 利 子	120,000	100,000	入会金(300名)： 300,000円
国 際 誌 購 読 謝 礼 金	0	1,300,000	ブラックウェル社より
雑 収 入	50,000	50,000	
収 入 小 計	49,120,000	52,230,000	
前年度繰越金	※ 28,690,000	18,610,000	※2001年度決算・繰越金概算とした
合 計	77,810,000	70,840,000	

支出の部

科 目	2002年度予算額	2003年度予算案	備 考
事 業 費	24,800,000	25,500,000	{ 第27回年会補助： 300万円 プログラム・第26回年会分： 200万円 事務諸経費330万円、編集部謝金200万円 ブラックウェル社支払い 国内購読取りまとめ費用等
会報発行	3,200,000	3,200,000	
年会補助金	5,000,000	5,000,000	
春季ソブツム補助金	7,000,000	7,000,000	
国際誌発行支援金	4,000,000	5,300,000	
// オンラインアクセス費用	3,500,000	3,500,000	
国際誌購読関係費	800,000	700,000	
ホームページ関係費	300,000	300,000	
事業費予備費	1,000,000	500,000	
評 議 委 員 会 費	6,500,000	1,000,000	
委員会費	1,000,000	1,000,000	
選挙・名簿作成費	5,500,000	0	
業 務 委 託 費	12,000,000	13,000,000	会報・年会プログラム他送料
一 般 事 務 費	13,900,000	12,700,000	
印刷費	400,000	300,000	
通信費	12,500,000	11,400,000	
庶務事務費	650,000	650,000	
雑 費	350,000	350,000	
予 備 費	2,000,000	2,000,000	
支 出 小 計	59,200,000	54,200,000	
次年度繰越金	18,610,000	16,640,000	
合 計	77,810,000	70,840,000	

※ 上記の収支繰越金以外に、将来事業準備金 4,000,000円(定期預金)があります。

日本分子生物学会 第3回春季シンポジウム 「科学の原点 - 知的好奇心 - 」のご案内

日本分子生物学会では、平成13年度(2001年)から「春季シンポジウム」を開催することになりました。平成15年度第3回春季シンポジウムの開催趣旨、計画および参加申込方法などをお知らせします。多数の皆様のご参加をお願いします。

趣 旨：日本分子生物学会は、年々学会の規模が大きくなり、包含する研究分野も広範囲になり、さらに各研究分野は専門化の一途をたどっています。シンポジウム、ワークショップの数も増大し、複数のものが同時に並行して開かれるため、異なる分野の話を聴く機会も少なくなっています。また会員数増加に伴い、年会は会場施設の関係で限られた大都市でしか開催できないようになり、若い研究者の参加は開催地とその周辺に偏りがちになっています。そこで、年会を開催できない地方においてこの春季シンポジウムを開催して、新しい方々の参加を期待するとともに、その地域の分子生物学研究の発展の促進に寄与することを目指しています。

なお、春季シンポジウムは様々な研究分野を総合的に考える機会をもつことを目的に開催されます。シンポジウムを一会場に限定し、講師には最近話題の優れた論文を発表された方々を中心にお願いし、最先端の研究成果をもとに議論し、科学の発展に役立てたいと考えます。本年度は、「科学の原点 - 知的好奇心 - 」をキャッチフレーズに鳥取県米子市で開催しますが、特に多くの学生会員の参加を期待して、学生会員の参加費を無料とします。またより多くの学生会員にポスター発表と優れた研究者との交流の機会を持っていただくために、(財)鳥取バイオサイエンス振興会の後援により、遠方よりのポスター発表の学生会員には一部の旅費の援助を検討しております。

開催日時：2003年5月11日(日)13:00～13日(火)17:00頃

開催場所：(講演会)米子コンベンションセンター Big Ship

〒683-0043 鳥取県米子市末広町74

TEL:(0859)35-8111

(懇親会)米子ワシントンホテル(12日(月)19:00～)

〒683-0053 鳥取県米子市明治町125

TEL:(0859)31-9111

参加予定人数：300人

プログラム：講演とポスター発表

講演予定者：【市民公開セミナー講演者】

鍋島陽一(京大院・医)、岡野栄之(慶應大・医)、押村光雄(鳥取大・医)

【学術講演者】

桂 勲(遺伝研/総研大)、濱田博司(阪大院・生命機能)、阿形清和(理研・発生再生研)、長濱嘉孝(岡崎基生研・生殖)、塚谷裕一(岡崎基生研・総合バイオ)、西川伸一(理研・発生再生研)、中内啓光(東大医科研・幹細胞治療)、丹羽仁史(理研・発生再生)

研) 山崎英俊(鳥取大・医) 小澤敬也(自治医大・医) 岡野栄之(慶應大・医) 辻省次(東大院・医) 小安重夫(慶應大・医) 審良静男(阪大・微研) 高倉伸幸(金沢大・がん研) 柳田充弘(京大院・生命) 中山敬一(九大・生医研) 田内 広(茨城大・理) 厚井輝美(LBNL, USA) 村田成範(DNA チップ研) 眞貝洋一(京大・ウイルス研) 押村光雄(鳥取大・医)

【ディスカッサー】

小川智子(岩手看護短期大) 小川英行(岩手看護短期大) 大石道夫(かずさ DNA 研究所) 松原謙一(DNA チップ研究所) 村松正實(埼玉医大・ゲノム医研セ) 他

ポスター演題募集：約 100 演題

第 3 回春季シンポジウムのタイムテーブル

	9:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
5月11日(日)				市民公開セミナー					
5月12日(月)	講演(5人)			ポスター発表		講演(6人)			懇親会
5月13日(火)	講演(5人)			講演(6人)					

発表形式：

(1) 講師による講演：30分(講演25分、討論5分)

(2) ポスター発表：ポスター展示は5月12日(月)12時から13日(火)13時まで。

ポスターボードの大きさは幅90cm、縦180cm。

ポスター発表申込：申込締切は4月15日(火)です。

参加申込：2003年2月12日(水)から4月30日(水)までです。

参加申込とポスター発表申込は共に日本分子生物学会第3回春季シンポジウムホームページ(<http://www.life.med.tottori-u.ac.jp/~mbsj/spring.html>)より直接お申込み下さい。

参加費：会員、非会員 5,000円(懇親会費を含みます)

学生(学部生、大学院生) 無料(懇親会も参加出来ます)

宿泊・航空機の申し込み：

近畿日本ツーリストから団体割引を用意しています。申込みは近畿日本ツーリストホームページ(<http://www.knt.co.jp/ec/bunshi-yonago/index.html>)または、春季シンポジウムホームページ内宿泊案内からお願いします。(なお、同期間に鳥取県にて大きな催し物が予定されています。宿泊・航空機の予約はお早めに願います。)

近畿日本ツーリスト株式会社 山陰支店 米子営業所

〒683-0812 鳥取県米子市角盤町1-173

TEL:(0859)33-2251 FAX:(0859)22-7106 E-mail:yonago@or.knt.co.jp

担当/高木・与那覇(ヨナハ)

【営業時間】9:30～17:00(土曜・日曜・祝日は休みです)

シンポジウムの詳細は日本分子生物学会第3回春季シンポジウムホームページ (<http://www.life.med.tottori-u.ac.jp/mbsj/spring.html>) に掲載しています。日本分子生物学会ホームページからもリンクできます。

オーガナイザー： 押村光雄（鳥取大学・医学部・生命科学科・細胞工学）
佐藤建三（鳥取大学・医学部・生命科学科・分子生物学）
林 真一（鳥取大学・医学部・生命科学科・免疫学）
白吉安昭（鳥取大学・医学部・生命科学科・細胞工学）
栗政明弘（鳥取大学大学院・医学系研究科・生命科学系専攻・ゲノム医工学
（キリンビール寄附講座））：事務担当

連絡先：鳥取大学医学部生命科学科 分子細胞生物学講座 細胞工学分野
代表世話人：押村光雄
〒683-8503 鳥取県米子市西町86
TEL：(0859) 34-8261 FAX：(0859) 34-8134
E-mail: genome@grape.med.tottori-u.ac.jp

第25回日本分子生物学会年会 年会報告

第25回日本分子生物学会年会は、昨年12月10日(水)から13日(土)までの4日間、前年度と同じパシフィコ横浜を会場に開催されました。幸いに天候にも恵まれて、年会には参加登録者として昨年より約1,200名多い9,064名、海外からの招待講演者などを含めると9,200名を超える参加者がありました。年会の参加者はここ数年毎年10数パーセントの伸びを示し、毎年史上最多の記録を更新し続けています。この増加は年会を担当しました我々の予想を遙かに上回るものであり、今年も昨年の増加を見越して準備をしたにもかかわらず講演要旨集が品切れとなり、当日参加登録された方々のすべてには行き渡らず、一部の方には大変ご迷惑をおかけしました。

パシフィコ横浜の会場は拡充が完了して昨年度と比較して講演会場が3割、展示会場が倍の広さになり若干のゆとりがあると予想していましたが、講演会場は殆ど聴衆で一杯になり、また溢れる会場もかなり多かったようで、皆様には、ご不便を感じさせることもあったのではないかと危惧しております。展示会場が大きくなったのでポスターは2日間の展示が可能となり、討論も充分にできてよかったという声を多く聞きました。シンポジウムとワークショップは公募、若手枠の公募、プログラム委員会の企画の100に近いテーマで行われました。従来の分子生物学の分野に加えて、ここ数年のめざましい発展を見せている再生医療、構造生物学、情報生物学などの分野についても活発な討論が行われ、盛況裡に終わることができました。今年で2回目になる保育室や親子休憩室も、無事に運営されました。また、今年から各々のセッションの発表運営を効率的にするために、原則的にすべてパソコンと液晶ビデオプロジェクターを用いて講演を行うことにしましたが、あまり大きな支障もなくスムーズに移行することができました。因みにスライドあるいはOHPを用いた講演は僅かに2%でした。年会の運営に対する皆様のご理解とご協力、および関係者のご尽力に心から御礼申し上げます。

今年の年会では、6題のplenary lecturesと最終日に中高校生のための公開講座をプログラム委員会の特別企画として開催しましたが、いずれも非常に好評であったと思います。特に公開講座は、土曜日の午後であったにもかかわらず500名を超える参加者があり、講演会終了後も中高校生が講師を囲んで熱心に質問を交わしているのが印象的でした。中高校生の理科離れを心配して開いた会でありますが、科学に対して中高校生が高い関心を持っていることを知ったことは、私共にとっても有意義なことでありました。今後も学会として研究の意義や面白さを一般の人も含めて中高校生に紹介する講演会を開いてゆくことは、大切なことではないかと感じました。ご協力いただいた世話人の方々、講師の先生方、関係の方々には厚く感謝致します。

最後に、本年会の成功を支えて下さった、東北大学と筑波大学の関係の皆様、学会センター関西、エーイー企画の皆様、打ち続く不況にもかかわらずバイオテクノロジーセミナー、機器・試薬・書籍展示にご理解いただき、参加下さいました多数の関連企業の皆様、年会の趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りました多くの企業および東京医薬品工業協会・大阪医薬品協会関連企業の皆様に、深甚なる御礼を申し上げます。

第25回日本分子生物学会 年会長 藤井 義明

第 26 回 (2003 年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その 1)

第 26 回日本分子生物学会年会を下記の要領で開催いたします。

1. 会 期 : 2003 年 12 月 10 日 (水) ~ 13 日 (土)

総 会 : 2003 年 12 月 12 日 (金)

2. 会 場 : 神戸国際展示場、神戸国際会議場、ワールド記念ホール、ポートピアホテル他

3. 内 容 :

現在下記の要領での開催を検討しております。詳細は次回会報 (No. 75) でお知らせするとともに、第 26 回年会のホームページ (<http://edpex104.bcasj.or.jp/mbsj2003/>) にも公開します。

- 1) 年会ではポスターと口頭による一般演題、シンポジウム (約 50 テーマ)、モーニングレクチャー、バイオテクノロジーセミナー、等を計画しています。
- 2) 一般演題の応募要領は次回会報 (No. 75) に掲載します。応募の締切日は 8 月 27 日 (水) の予定です。一般演題の中から一部を採用し、口頭で発表する方式を検討しています。なお、本年も、年会の参加および演題受付等は昨年度と同様すべて Web 上で行う計画で準備を進めています。
- 3) シンポジウムのテーマを公募します。シンポジウムについての提案がある会員の方は、テーマと概要 (400 字程度)、世話人 (2 名程度) と数名の演者の氏名と所属、予想される聴衆の数を、2003 年 3 月末日必着で、E-mail もしくは Fax で年会事務局宛に送付して下さい。応募数が多い場合には、採択されない場合もあることを予めご了承ください。一部のシンポジウムにつきましては現在、組織委員会を中心に企画を進めております。
企画中のシンポジウムにつきましては年会ホームページ (<http://edpex104.bcasj.or.jp/mbsj2003/>) にてご確認ください。
- 4) 特別企画として、研究教育関係と研究行政関係の企画を夜の時間帯に計画しています。
- 5) 企業によるバイオテクノロジーセミナーを予定しております。「どこの企業の話が聞きたい」という提案を受け、年会より企業にセミナー主催の依頼を行いたいと考えております。提案がある会員の方は、2003 年 5 月末までに年会事務局までご提案ください。
- 6) 社会貢献の一環として、市民公開講座を開催する予定としております。
- 7) 講演要旨集は印刷物として発行します。Web 上での内容の公開はしませんが、on-line でキーワードによる内容の検索を行い、検索結果に一致した演題番号を知ることができるようにする予定です。また、講演要旨集の形態について、何か提案・意見がある会員の方は、年会事務局までご意見をお寄せください。
- 8) 懇親会は行わず、代わりにミキサーを企画しています。
- 9) 年会会場に保育室を設置することを検討しています。

なお、その他年会開催についてのご意見、ご希望は、年会長 または庶務幹事 宛に直接ご連絡下さい。

< 第 26 回年会 年会長 >

〒 444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中 38

岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所

勝木 元也

Tel : (0564) 55-7104 Fax : (0564) 55-7656 E-mail: katsuki@nibb.ac.jp

< 第 26 回年会 庶務幹事 >

〒 444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中 38

岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所

諸橋 憲一郎

Tel : (0564) 55-7560 Fax : (0564) 55-7561 E-mail: moro@nibb.ac.jp

< 第 26 回日本分子生物学会年会 事務局 >

〒 560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル 14 階

学会センター関西内

Tel : (06) 6873-2301 Fax : (06) 6873-2300 E-mail: bunshi26@bcasj.or.jp

第26回日本分子生物学会年会 委員名簿

年 会 長

勝木 元也 岡崎国立共同研究機構
基礎生物学研究所

庶務幹事

諸橋憲一郎 岡崎国立共同研究機構
基礎生物学研究所

組織委員

饗場 弘二 名古屋大学大学院理学研究科

飯田 滋 岡崎国立共同研究機構
基礎生物学研究所

井口 泰泉 岡崎国立共同研究機構
統合バイオサイエンスセンター

池中 一裕 岡崎国立共同研究機構
生理学研究所

石浦 正寛 名古屋大学遺伝子実験施設

石川 勝利 静岡大学理学部

市原 慶和 藤田保健衛生大学

伊藤 啓 岡崎国立共同研究機構
基礎生物学研究所

今川 正良 名古屋市立大学大学院薬学研究科

井本 敬二 岡崎国立共同研究機構
生理学研究所

上野 直人 岡崎国立共同研究機構
基礎生物学研究所

遠藤斗志也 名古屋大学大学院理学研究科

大隅 良典 岡崎国立共同研究機構
基礎生物学研究所

岡本 尚 名古屋市立大学大学院医学研究科

貝淵 弘三 名古屋大学大学院医学研究科

加藤 晃一 名古屋市立大学大学院薬学研究科

川岸 郁朗 名古屋大学大学院理学研究科

北川 雅敏 浜松医科大学医学部

北川 泰雄 名古屋大学大学院生命農学研究科

楠見 明弘 名古屋大学大学院理学研究科

黒岩 厚 名古屋大学大学院理学研究科

黒澤 良和 藤田保健衛生大学

郷 通子 名古屋大学大学院理学研究科

小林 悟 岡崎国立共同研究機構

統合バイオサイエンスセンター

近藤 孝男 名古屋大学大学院理学研究科

澤田 誠 藤田保健衛生大学

杉浦 昌弘 名古屋市立大学大学院

高田 慎治 岡崎国立共同研究機構

統合バイオサイエンスセンター

塚谷 裕一 岡崎国立共同研究機構

統合バイオサイエンスセンター

長濱 嘉孝 岡崎国立共同研究機構

基礎生物学研究所

中村 研三 名古屋大学大学院生命農学研究科

西田 育巧 名古屋大学大学院理学研究科

西村 幹夫 岡崎国立共同研究機構

基礎生物学研究所

野田 昌晴 岡崎国立共同研究機構

基礎生物学研究所

長谷部光泰 岡崎国立共同研究機構

基礎生物学研究所

原田 信広 藤田保健衛生大学

藤澤 肇 名古屋大学大学院理学研究科

堀 寛 名古屋大学大学院理学研究科

堀内 嵩 岡崎国立共同研究機構

基礎生物学研究所

舛本 寛 名古屋大学大学院理学研究科

町田 泰則 名古屋大学大学院理学研究科

松本 邦弘 名古屋大学大学院理学研究科

三浦 直行 浜松医科大学学生化学第二

水野 猛 名古屋大学大学院生命農学研究科

村松 喬 名古屋大学大学院医学系研究科

望月 敦史 岡崎国立共同研究機構

基礎生物学研究所

森 郁恵 名古屋大学大学院理学研究科

森 望 国立長寿医療研究センター

山森 哲雄 岡崎国立共同研究機構

基礎生物学研究所

渡邊 肇 岡崎国立共同研究機構

統合バイオサイエンスセンター

特別委員

磯野 克己 神戸大学理学部

日本分子生物学会・男女共同参画・ミニワークショップ - 男女共同参画・ネットワークづくりに向けて -

大学・企業・国研・・・能力を発揮できるのはどこだ!!
生き延びるために、あなたなら、どこを選ぶ!?

21世紀のわが国の進むべき社会は「男女共同参画社会!!」。その理念のもとに、平成11年6月に「男女共同参画社会基本法」が公布・施行されてすでに3年半、女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境を整えるために、私たちは、まず何をしたらよいのでしょうか? 日本分子生物学会では、第25回年会会期中の平成14年12月13日(金)、ランチタイムを利用して「男女共同参画・ネットワークづくり」に向けて、上記のタイトルでミニ・ワークショップを開催しました(主催:日本分子生物学会・男女共同参画ワーキンググループ、場所:パシフィコ横浜年会会場、5階514号室)。

すでに、男女共同参画に関するアンケート調査と、その解析を終えた日本動物学会と応用物理学会からそれぞれ講師をお招きし、アンケート調査結果について25分ずつお話ししていただきました。講師としてご参加いただいた、日本動物学会の窪川かおる氏(東京大学・海洋研・助手)、応用物理学会の渡辺美代子氏(東芝研究開発センター・環境技術・分析センターグループ長)のお二人は、いずれもそれぞれの学会で「男女共同参画問題」に関して、アンケートの作成、集計、解析の中心となった方々です。そこでは、企業と大学では、女性研究者が持つことのできる子供の数も、昇進のスピードもこんなに違う!!等々、驚くべき結果も報告されました。

日本分子生物学会会員の参加は約30名、小川智子学会長をはじめとして、大学院生、ポストドク、国公立研究機関の研究者、国・私立大学の教授、助教授、講師、助手、名誉教授等、少人数の割には多彩な顔ぶれで、講師お二人の講演後、約40分にわたって活発な議論が行われました。このワークショップで問題になった点は、たまたま子育て真っ最中の女性研究者の割合が多かったことも反映して、

- (1) 就職・奨学金・研究費などの年齢制限をなくしてほしい。
- (2) 妊娠・子育ての時期のバックアップ(具体的には研究補助員)がほしい。
- (3) 子育てによるハンデと研究業績評価をどう考えるか? 評価の基準をどこにおくか?
- (4) 今後普及すると考えられるポストドク制度や任期制が女性研究者のキャリアアップとライフサイクルにどう影響してしてくるのか?

といった点が、話題の中心になりました。「育児休暇よりも実験補助員を!!」というのが、多くの大学や国公立研究機関で研究する女性研究者の、現時点での切実な希望として出されました。期せずして、女性の研究能力評価の問題も含めて、企業研究者と大学や国公立研究所の研究者との考え方や実態の違いが浮き彫りにされた会となりました。

日本分子生物学会男女共同参画ワーキンググループとしては、今後もこのような議論の場を、できるだけ多く設けていきたいと考えています。

日本分子生物学会男女共同参画ワーキンググループ 大坪 久子

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の5名の選考委員および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
- 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

4月に役員が替わりますが、3月末日までは下記に提出して下さい。4月以降の送り先については学会事務局（TEL 03-5814-5801）にお問合せ下さい。

賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長 花岡文雄

〒565-0871 吹田市山田丘1-3 大阪大学大学院生命機能研究科

Fax:(06)6877-9382

研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長 岡田清孝

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科

Fax:(075)753-4257

3. 提出期限

財団等の締切の1ヵ月前まで。提出期限後に受け取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

研究助成一覧

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
第34回三菱財団 自然科学研究助成	(財)三菱財団 ☎(03)3214-5754 〒100-0005 千代田区丸の内2-5-2	総額3億円, 40件程度	2003年 2月12日	1件当り2,000万円 まで	自然科学の基礎となる独 創的、かつ先駆的研究と ともに、国際的發展に先 導的役割を担う萌芽とも なる研究(原則として個 人研究)。
新化学発展協会 2003年度研究奨励 金	(社)新化学発展協会 ☎(03)3294-8031 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-5	6課題, 各課題1件	2003年 1月31日	1件 100万円	新化学の発展に資する若 手研究者(39歳以下)の 研究に対して、研究奨励 金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財団 2003年度研究援助	(財)山田科学振興財団 ☎(06)6757-3311 〒544-8666 大阪市生野区異西1-8-1	10件程度 (2件)	2003年 3月31日	1件当たり100~ 500万円, 総額4,000万円	自然科学の基礎的研究に 対しての研究費援助。 [推薦書の請求は 事務センター・福田 (TEL03-5814-5801まで)]
アマシャムパイオ サイエンスアンド サイエンス賞 (若手研究者支援 奨学金)	アマシャムパイオサイエ ンス(株) ビジネスコミュニケーション 室 ☎(03)5331-9382 〒169-0073 新宿区百人町3-25-1 サンケイビルディング (応募先) Young Scientist Prize Selection Committee, SCIENCE Room 1053, 1200 New York Avenue, NW Washington, DC 20005, USA	若干名	2003年* 7月15日	最優秀賞金 US\$25,000 その他の受賞者 US\$5,000	1995年よりSCIENCE誌 との協賛で、学位取得直 後の優秀な若手研究者を 支援するためにPharma cia Biotech & SCIENCE Prize for Scientists in Molecular Biologyを設 置。
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎(03)1023-1722 〒102-8471 千代田区一番町6 日本学術振興会内	1件 (1件)	2003年* 5月7日	賞状, 賞牌, 1,000万円	生物学の研究において世 界的に優れた業績を挙 げ、世界の学術進歩に大 きな貢献をした研究者。
第21回研究助成 第20回国内および 海外留学補助金 第20回持田記念学 術賞	(財)持田記念医学薬学振興 財団 ☎(03)3358-7211 〒160-8515 新宿区四谷1-7	総額 5,000万円 総額 1,000万円 2件以内 (1件)	2003年* 6月30日 2003年* 6月30日 2003年* 7月31日	1件 100万円 1件 50万円 1件 300万円	生命科学・薬物科学・情 報科学と医療応用の研究 の分野における研究で、 顕著な功績があり、かつ 新進気鋭の研究者。
日産学術研究助成 第11回日産科学賞	(財)日産科学振興財団 ☎(03)3543-5597 〒104-0061 中央区銀座6-16-9	①総合研究 8件程度 (枠なし) ②奨励研究 30件程度 (平成14年度か ら日産財団へ の直接応募方 式に変更)	2003年* 8月30日	①1,000万円まで ②200万円まで 賞状, メダル, 500万円	自然科学分野で、それぞ れの研究の成果が学術の 進歩・発展に貢献するこ ろが大きいと思われる もの、新しい研究分野の 開拓に貢献する研究者お よび研究グループ(奨励 研究は40歳以下)。 自然科学分野で、学術文 化の向上・発展に大きな 貢献をした満50歳未満の 研究者。
笹川科学研究助成	(財)日本科学協会 ☎(03)6229-5365 〒107-0052 港区赤坂1-2-2 日本財団ビル	約390件	募集期間 2003年* 9月2日 } 10月15日	1件当り100万円ま で	人文科学, 社会科学およ び自然科学(医学を除 く), または境界領域の 研究計画に関するもの。 4月1日現在, 35歳以 下の若手研究者へ助成。
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 ☎(03)3985-3500 〒171-0033 豊島区高田3-26-3	2件以内 (1件)	2003年* 9月10日	金牌 2,000万円	生命科学の栄養学, 薬 学, 基礎および臨床医 学, 社会医学で顕著な業 績を挙げ、引き続き活躍 中の研究者。
井上 学 術 賞	(財)井上科学振興財団 ☎(03)3477-2738 〒150-0036 渋谷区南平台町15-15-601	5件以内 (1件)	2003年* 9月20日	1件賞状, メダル, 200万円	自然科学の基礎的研究で 特に顕著な業績を挙げた 者(ただし締切日現在満 50歳未満)。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
木原記念財団学術賞	(財)木原記念横浜生命科学振興財団 ☎(045)825-3487 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12	1件 (1件)	2003年* 9月30日	賞状, 記念牌, 200万円	最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で, 原則として締切日現在50歳以下の者。
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 ☎(047)350-6103 〒279-8555 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後 (2件)	2003年* 10月10日	1件 賞状, 金メダル, 500万円	学術上の業績顕著な者, 学術上重要な発見をした者, 重要な発明により効果が大きい者, 技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。
東レ科学技術研究助成		総額 1億3,000万円 10件程度 (2件)	2003年* 10月10日	特に定めず最大 3,000万円まで	基礎的な研究に従事し, 今後の研究の成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる, 独創的, 萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者。
第35回科学振興賞	(財)内藤記念科学振興財団 ☎(03)3813-3005 〒113-0033 文京区本郷3-42-6 NKDビル8階	1件 (1件)	2003年* 10月10日	金メダル, 300万円	人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究, 自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
第35回海外学者招聘助成金		前後期各総額 500万円 (1件)	2003年* 6月3日 10月10日	1件 50万円まで	同上のテーマに取り組み, 国際的に高い評価を得ている外国の研究者を招聘する受入れ責任者に贈呈。
ブレインサイエンス財団研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 ☎(03)3273-2565 〒104-0028 中央区八重洲2-6-20	8件 (1件)	2003年* 11月26日	1件 80万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者, 単独または共同研究も可。
塚原仲晃記念賞		1件 (1件)		1件 100万円	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため, 国際学会, シンポジウム等への参加, あるいは研究者の派遣を助成。
海外派遣研究助成		若干件 (1件)	2004年* 1月16日	1件 30万円まで	同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
海外研究者招聘助成		若干件 (1件)		1件 30万円まで	
研究助成	(財)長瀬科学技術振興財団 ☎(06)6535-2117 〒550-8668 大阪市西区新町1-1-17	10数件	2003年* 11月30日	1件 250万円以内	生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関。
国際交流助成		10件程度	2003年* 11月30日	1件 30万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘(除く留学)。
2003年度研究集会助成	(財)ノバルティス科学振興財団 ☎(03)5414-5761 〒106-0032 港区六本木7-8-4 銀嶺ビル5F	約10件 (1件)	2003年* 1月31日	1件 50万円	わが国で開催される生物・生命科学およびそれに関連する化学の領域における研究集会に対し, 運営経費の一部を助成する。研究集会はかなりの数の国外からの参加者を含む国際性豊かな集会でなければならない。ただし, 参加者が1,000名を越すような大規模な研究集会および2国間の研究集会は原則として助成の対象としない。

()内は, 応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合, 本学会の推進枠を示しています。

*は, 本年度の案内を受取っておらず, 昨年の締切日を参考に示してあります。

各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

ロボット工学セミナー 第20回シンポジウム

バイオ応用ロボティクスの現状と将来

- 「生体組織を対象とする微細作業高度化」研究専門委員会成果報告 -

協賛(予定): 計測自動制御学会、精密工学会、電気学会、電子情報通信学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本ロボット工業会、農業機械学会、自動化推進協会、バイオメカニズム学会、産業技術連携推進会議 機会・金属連合部会/福祉技術部会、機会技術協会、応用物理学会、人口知能学会、日本神経回路学会、システム制御情報学会、情報処理学会、日本人間工学会、日本時計学会、日本バーチャルリアリティ学会

日時: 2003年4月11日(金) 10:00 ~ 17:00

場所: 東京理科大学神楽坂校舎 1号館 17階記念講堂

(東京都新宿区神楽坂 1-3, JR 中央線 飯田橋駅下車 徒歩5分)

口上: ナノ・マイクロロボティクスがバイオと融合するとき、限らない夢と展望が開かれます。マイクロ、サブマイクロメートルオーダーの大きさを持つ物体を対象として、ナノメートルオーダーの精度でハンドリングや加工を行うことが可能なナノ・マイクロマニピュレーション技術を、核移植などの細胞操作自動化に適用することにより、創薬や食品などバイオ関連製品の開発や実用化の効率が飛躍的に向上することが期待されます。MEMS やマイクロTASを用いた搬送技術を融合することにより、スループットを高めるデスクトップバイオ工場の実現も夢ではありません。本シンポジウムでは、DNA、細胞、組織などを対象とするナノ・マイクロロボティクスの現状と課題を展望します。

オーガナイザ: 新井健生(阪大)、新井史人(名大)、谷川民生(産総研)

講師: 第1話 ナノ・マイクロロボティクスを応用したデスクトップバイオプラントの展望

(10:00 ~ 11:00)

新井健生(阪大)

第2話 クローニング技術(11:10 ~ 12:10)

高橋清也(農業技術研究機構畜産草地研)

第3話 マイクロ・ナノハンドリング技術(13:30 ~ 14:30)

谷川民生(産総研)

第4話 バイオ応用搬送技術(14:40 ~ 15:40)

新井史人(名大)

第5話 バイオ応用計測技術(15:50 ~ 16:50)

三原孝士(オリンパス光学工業)

定員: 100名(定員になり次第締切ります)

参加費: 会員/協賛学会員 8,000円 学生 4,000円 会員外 12,000円 (全て税込)

上記参加費には、配布資料代を含み、昼食代は含みません。

申込方法: 任意の用紙に講習会名、会員資格(会員No.)、氏名、所属、連絡先住所、参加費支払方法をご記入の上、下記宛郵送またはFAXください。

(お支払いに請求書等が必要な場合は、申込書に詳細を明記ください)

参加費振込口座: あさひ銀行本郷支店(普) 1063675 または郵便振替 00190-8-57896 / (社)日本ロボット学会

申込み・問合せ先: 〒113-0033 文京区本郷2-19-7

ブルービルディング2F

(社)日本ロボット学会 講習会係

Tel:(03)3812-7594 Fax:(03)3812-4628 E-mail:seminar@rsj.or.jp

第4回 PIKPK 研究会 (旧 ATM/PKD 研究会)

日 時：2003年4月18日(金)

講演会：12:00～17:00、懇親会：17:00～19:00

場 所：神戸大学・神大会館六甲ホール(神戸大学六甲台キャンパス内)

内 容：ATM (Ataxia telangiectasia mutated)、DNA-PK、TOR (Target of rapamycin)、SMG-1 などの PIKPK (PI-3 kinase 関連 protein kinase)、並びにそれらに関する基礎的・臨床的研究の発展をめざします。

特別講演：「胃発がんの連盟的首位性 - TSC Signaling Pathway - 」

樋野興夫先生(癌研)

演題募集：1) e-mail での応募を歓迎します。ファイルを添付せずにメールの本文中に記載し、テキスト形式でお送りください。

2) 日本語もしくは英語でお願いします(A4一枚程度)。

3) 発表者を含めた研究会参加予定者の所属、連絡先と氏名、懇親会参加の有無もあわせてご連絡ください。

一般参加者募集：

1) 研究会参加予定者の所属、連絡先と氏名、懇親会参加の有無を E-mail 等でご連絡ください。

参加費：1,000 円、懇親会費：3,000 円

応募締切：2003年3月21日(金)

申込み・問合せ先：

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学バイオシグナル研究センター

米澤一仁(「研究会」会長)

Tel:(078)803-5963 Fax:(078)803-5970 E-mail:yonezawa@kobe-u.ac.jp

第30回生体分子科学討論会

日 時：2003年6月14日(土)～15日(日)

場 所：京都大学理学研究科6号館

共催および協賛：日本分子生物学会、日本化学会、日本生物物理学会、日本薬学会など

参加申込締切：2003年4月14日(月)必着

予稿原稿締切：2003年5月12日(月)

討論主題：生体分子の構造と相互作用・認識・調節・反応・情報伝達・電子伝達など

発表形式：口頭発表(発表時間15分、討論5分の予定)

発表申込方法：以下の項目について発表申込フォーマットに記入後 E-mail または Fax でお申込みください。

1) 講演題目、2) 発表者氏名(連名の場合には講演者に 印)、3) 発表者所属、4) 講演者氏名、5) 連絡先(郵便番号、所在地、電話、Fax、E-mail)、6) 講演概要(150字程度)

参加費(講演要旨集代を含む)：一般4,000円(当日5,000円)

学生2,500円(当日4,000円)

懇親会費(6月14日(土)発表終了後)：一般6,000円(当日7,000円)

学生4,000円(当日5,000円)

参加申込方法：参加登録費、懇親会費の合計を銀行に振込み、以下の項目を記入した E-mail または Fax をお送りください。整理の都合上、申込は参加者ごとに行ってください。1) 参加者氏名、2) ふりがな、3) 所属、4) 連絡先（郵便番号、所在地、電話、Fax、E-mail）、5) 一般・学生の区別、6) 懇親会参加・不参加、7) 振込額、8) 振込日

振込先：みずほ銀行百万遍支店 店番 476

(普) 2326227

第 30 回生体分子科学討論会 寺嶋正秀

申込み・問合せ先：

〒 606-8502 京都市左京区

京都大学大学院理学研究科化学

寺嶋正秀

Tel : (075) 753-4026 Fax : (075) 753-4000 E-mail: s_shimizu@kuchem.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://kuchem.kyoto-u.ac.jp/hikari/index.html>

第 3 回日本蛋白質科学会年会

日 時：2003 年 6 月 23 日 (月) ~ 25 日 (水)

場 所：札幌コンベンションセンター (札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目)

(札幌駅より地下鉄で 10 分、大通駅で東西線に乗換え、「東札幌駅」下車)

年会実行委員長：稲垣冬彦 (北海道大学大学院薬学研究科)

年会主題：「ポストゲノム時代の蛋白質研究 - 原子レベルから細胞レベルまで - 」

基調講演：田中耕一 (島津製作所フェロー)

「MALDI-MS の起源と発展」

Kurt Wüthrich (ETH Zürich, Scripps Res. Inst.)

「The NMR view of proteins」

柳田敏雄 (阪大・生命)

「1 分子ナノバイオサイエンス」

シンポジウム：「細胞生物学と蛋白質研究の新しい潮流」

竹縄忠臣 (東大医科研) 月田承一郎 (京大院医) 箱守仙一郎 (ワシントン大学)

公募型シンポジウム：講演 20 分、討論 10 分に耐えうる、年会主題に沿ったまとまった研究について 6 演題公募します。演題申込時に 1,200 字以内の発表要旨をお送りください。申込者は日本蛋白質科学会会員に限ります。なお、公募型シンポジウムに採択されなかった場合は、一般演題への申込みができます。

ワークショップ：

「ファルマコプロテオミックス プロテオーム解析から創薬標的分子のデザイン」

野口照久 (テノックス研) 古谷利夫 (ファルマデザイン)

「機能プロテオミックスの新技术」

平野 久 (横浜市大) 磯辺俊明 (都立大理)

「プロテイン・インフォマティクス」

中村春木 (阪大蛋白研)

「進化する構造生物学 原子レベルから細胞レベルまで」

伊倉光彦 (トロント大) 津田 栄 (産総研)

「*in vivo* 1 分子観察 細胞生物との接点」

金城政孝 (北大電子研) 村田昌之 (基生研)

「今日の蛋白質フォールディング研究 フォールディング病研究を含めて」

新田勝利 (北大理) 後藤祐児 (阪大蛋白研)

「構造ゲノム科学の戦略」

田中 勲（北大理）、田之倉優（東大農）

「構造生物学 2003」

神田大輔（九大生医研）、箱嶋敏男（奈良先端大）

「ポストゲノム時代の遺伝子ネットワーク解析」

柳川弘志（慶應大理工）、斎藤輪太郎（慶應大先端研）

「組換え蛋白質生産技術の新展開」

田村具博（産総研）、中野秀雄（名大生命農）

「次世代ポストゲノム研究 糖鎖、脂質による蛋白質機能調節」

井ノ口仁一（北大薬）、西村紳一郎（北大理）

「今膜蛋白がおもしろい：その多彩な機能と作動機構」

加茂直樹（北大薬）、出村 誠（北大理）

「未来へはばたく若手の力 蛋白質科学の今と未来」

川原裕之（北大薬）、相沢智康（北大理）

「*in silico* でゲノム・プロテオームはどこまで解明できるか - コンピュータによる解析方法とその適用 - 」

大田元規（東工大学術国際情報セ）、由良 敬（原研）

一般演題：一般演題（ポスター発表）を公募します。申込者は日本蛋白質科学会会員に限ります。非会員の方はあらかじめ入会手続きをお取りください。なお、発表者としての演題申込みは1名1演題に限ります。

締切期日：公募型シンポジウム（口演）演題締切：2003年4月1日（火）

公募型シンポジウム採択決定：2003年4月7日（月）

一般演題（ポスター）締切：2003年4月16日（水）

参加登録予約締切：2003年5月12日（月）（以後は当日会場にて受付）

予約参加費（プログラム・要旨集を含む）：一般 6,000円（当日7,000円）

学生 4,500円（当日5,000円）

懇親会（6月24日（火））参加費：一般 7,000円（当日8,000円）

学生 3,000円（当日4,000円）

学会入会、参加登録予約、および演題の申込み：

学会入会、参加登録予約、および演題の申込みは、ホームページ（<http://edpex104.bcasj.or.jp/pssj2003/>）で受付いたします。シンポジウム/ワークショップの企画に関してもホームページ上に順次掲載いたしますのでご覧ください。

申込み・問合せ先：

〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2 千里LCビル14階

学会センター関西内

第3回日本蛋白質科学会年会事務局

Tel: (06) 6873-2301 Fax: (06) 6873-2300 E-mail: pssj2003@bcasj.or.jp

URL: <http://edpex104.bcasj.or.jp/pssj2003/>

第24回日本糖質学会年会

日時：2003年7月29日（火）～7月31日（木）

場所：神奈川県民ホールおよび横浜シンポジア

討論主題：糖質、複合糖質の化学と生化学・分子生物学、構造と機能、分析法と合成法、および医薬と食品工業などへの応用。

特別シンポジウム：構造グライコミクス

発表形式：口頭発表およびポスター発表

発表申込方法：2003年3月1日より本学会ホームページ（<http://www.gak.co.jp/jscr/>）に掲載します。
4月1日（火）～5月6日（火）の期間にインターネットで受付。

参加費：日本糖質学会正会員および共催学会正会員：5,000円（5,500円）

日本糖質学会学生会員および共催学会学生会員：2,500円（3,000円）

一般：6,000円（6,500円）

一般学生：3,000円（3,500円）

（ ）内は2003年6月28日（土）以降申込みの場合。

要旨集：5,000円

懇親会：2003年7月30日（水）19:00～21:00

横浜ベイクルーズ

会費：9,000円（10,000円）

登録方法：参加登録料、要旨集代金、懇親会会費を2003年6月27日（金）までに、銀行振込、または郵便為替にて送金してください。口座番号は後日ホームページに掲載。

問合せ先：〒199-0195 神奈川県津久井郡相模湖町寸澤嵐 1091-1

帝京大学薬学部

第24回日本糖質学会

世話人代表 笠井献一

Tel: (0426) 85-3740 Fax: (0426) 85-3742 E-mail: kasai-k@pharm.teikyo-u.ac.jp

その他

NIA/NIH マウス 7.4K cDNA クローンセット分譲開始

理化学研究所バイオリソースセンター遺伝子材料開発室では、米国 National Institute on Aging (NIA) / NIH の洪実先生より寄託されましたマウス各発生初期段階特異的 7.4K cDNA クローンセットの分譲を開始いたします。分譲に関しては制限条項があります。詳しくは <http://lgsun.grc.nia.nih.gov> をご参照ください。前回リリースの 15K クローンセットとは重複のない独立した cDNA のクローンセットです（平均サイズ 1.5kb 以上）。

申込方法：分譲申込書に使用目的・送付先・使用者を明記の上、所属機関発行の組換え実験承認書の写しとともにお申込みください。分譲申込書は当開発室 HP より入手いただくか分譲係までご請求ください。

分譲手数料：国公立機関・教育機関 204,700円/セット（税抜き）

遺伝子材料開発室 HP： <http://www.rtc.riken.go.jp/DNA/HTML/>

問合せ先：〒305-0074 茨城県つくば市高野台 3-1-1

理化学研究所筑波研究所バイオリソースセンター

遺伝子材料開発室 分譲係

Fax: (029) 836-9120 E-mail: dnabank@rtc.riken.go.jp

人手不足のため、電話による問合せはご遠慮ください。